

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 目次

- 1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 . . . . . P. 1
- 2 人材需要の動向等社会の要請 . . . . . P. 5

## 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### (1) 学生の確保の見通し

#### ア 定員充足の見込み

##### ①定員設定の考え方

理工学部環境創造工学科は、「設置の趣旨及び必要性」に記載の通り、同学部環境創造学科の理念を継承しつつ、より先端的な学問領域としての「環境工学」を取り扱う学科として設置する。入学定員についても、環境創造学科が設定する現行定員を環境創造工学科においても適用することとし、入学定員 80 名、収容定員 320 名とした。

##### ②定員充足の見込み

環境創造学科の直近 5 年間の入学定員に対する志願者数は 10.0 倍～13.0 倍に推移しており、多くの受験生の進路選択肢に含まれていることが分かる。また、近年、よりその重要性が叫ばれている「環境問題」を扱う学科であること、及び環境創造学科の教育課程のうち「工学」分野が充実することにより、これまで本学理工学部の工学系他学科を志願していた受験生の進路選択肢として、環境創造工学科が加わることも見込まれる。

以上のことから、環境創造工学科において設定する入学定員を充足する見込みがあると考えられる。

#### イ 定員充足の見込み

##### ①理工学部環境創造学科の学生募集状況（平成 27 年度～平成 31・令和元年度）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31・令和元年度
入学定員	90	90	80	80	80
志願者数	940	899	1,042	1,027	829
受験者数	913	871	1,005	1,005	789
合格者数	339	333	321	244	243
入学者数	91	95	101	77	79
定員超過率	1.01	1.05	1.26	0.96	0.98

※「平成 31 年度」の数値は平成 31 年 4 月 3 日時点。（以下同様）

※「定員超過率」は小数第 3 位を切り捨て。（以下同様）

##### ②理工学部工学系他学科の学生募集状況（平成 27 年度～平成 31・令和元年度）

本学理工学部では、環境創造学科のほかに、工学系学科（「学士（工学）」の学位を授与する学科）を 9 学科設置しており、各学科における学生募集状況は以下の通りである。

(1) 情報工学科の学生募集状況（平成 27 年度～平成 31・令和元年度）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31・令和元年度
入学定員	145	145	150	150	150
志願者数	2,899	2,522	3,334	3,365	3,452
受験者数	2,816	2,445	3,241	3,262	3,332
合格者数	681	737	812	726	787
入学者数	156	152	181	138	131
定員超過率	1.07	1.04	1.20	0.92	0.87

(2) 電気電子工学科の学生募集状況（平成 27 年度～平成 31・令和元年度）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31・令和元年度
入学定員	130	130	150	150	150
志願者数	2,271	2,386	2,497	2,459	2,379
受験者数	2,200	2,324	2,421	2,389	2,277
合格者数	748	724	841	862	906
入学者数	133	142	167	137	141
定員超過率	1.02	1.09	1.11	0.91	0.94

(3) 材料機能工学科の学生募集状況（平成 27 年度～平成 31 年度）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31・令和元年度
入学定員	65	65	80	80	80
志願者数	954	958	1,174	1,135	1,167
受験者数	928	931	1,135	1,103	1,110
合格者数	393	430	437	376	501
入学者数	60	77	109	78	73
定員超過率	0.92	1.18	1.36	0.97	0.91

(4) 応用化学科の学生募集状況（平成 27 年度～平成 31・令和元年度）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31・令和元年度
入学定員	60	60	70	70	70
志願者数	1,704	1,623	1,678	1,763	1,903
受験者数	1,651	1,589	1,632	1,712	1,837
合格者数	491	453	546	632	797
入学者数	63	45	52	70	66
定員超過率	1.05	0.75	0.74	1.00	0.94

(5) 機械工学科の学生募集状況（平成 27 年度～平成 31・令和元年度）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31・令和元年度
入学定員	120	120	125	125	125
志願者数	2,991	2,800	2,712	2,675	2,768
受験者数	2,916	2,708	2,629	2,599	2,683
合格者数	812	751	863	867	809
入学者数	146	106	132	110	109
定員超過率	1.21	0.88	1.05	0.88	0.87

(6) 交通機械工学科の学生募集状況（平成 27 年度～平成 31・令和元年度）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31・令和元年度
入学定員	110	110	125	125	125
志願者数	1,353	1,373	1,362	1,256	1,401
受験者数	1,317	1,332	1,334	1,226	1,343
合格者数	370	378	351	352	438
入学者数	109	120	111	123	124
定員超過率	0.99	1.09	0.88	0.98	0.99

(7) メカトロニクス工学科の学生募集状況（平成 27 年度～平成 31・令和元年度）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31・令和元年度
入学定員	75	75	80	80	80
志願者数	991	1,021	1,068	1,204	1,242
受験者数	960	974	1,034	1,161	1,189
合格者数	272	299	286	357	351
入学者数	81	81	77	85	79
定員超過率	1.08	1.08	0.96	1.06	0.98

(8) 社会基盤デザイン工学科の学生募集状況（平成 27 年度～平成 31・令和元年度）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31・令和元年度
入学定員	90	90	90	90	90
志願者数	1,055	1,027	1,131	924	992
受験者数	1,022	996	1,109	900	944
合格者数	355	308	264	322	312
入学者数	112	100	91	82	90
定員超過率	1.24	1.11	1.01	0.91	1.00

(9) 建築学科の学生募集状況（平成 27 年度～平成 31・令和元年度）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31・令和元年度
入学定員	135	135	145	145	145
志願者数	2,152	2,588	2,601	2,217	2,262
受験者数	2,089	2,514	2,542	2,174	2,184
合格者数	582	523	501	577	583
入学者数	166	150	139	150	147
定員超過率	1.22	1.11	0.95	1.03	1.01

ウ 学生納付金の設定の考え方

環境創造工学科の学生納付金は以下の通り 4 年間総額で 5,180,000 円であり、競合大学と比較して、低く設定されている。また、金額は現行の環境創造学科と同額であり、同学科の学生募集状況を考慮すれば、本学が提供する教育内容・学修環境等に対し、妥当な金額であると言える。

大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	教育充実費 施設費等	4 年間総額	備考
名城大学 理工学部 環境創造工学科	1	200,000	935,000	310,000	5,180,000	
	2-4	-				

競合大学の学生納付金（平成 31 年度）

大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	教育充実費 施設費等	4 年間総額	備考
愛知工業大学 工学部 応用化学科	1	250,000	880,000	460,000	5,790,000	
	2	-	900,000	470,000		
	3		920,000	480,000		
	4		940,000	490,000		
大同大学 工学部 建築学科	1		300,000	890,000	315,000	5,300,000
	2	-	910,000	325,000		
	3		930,000	335,000		
	4		950,000	345,000		
中部大学 工学部 都市建設工学科	1		280,000	930,000	410,000	5,640,000
	2-4	-				

大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	教育充実費 施設費等	4年間総額	備考
同志社大学 理工学部 環境システム学 科	1	200,000	1,208,000	303,000	6,433,000	
	2		1,245,000	346,000		
	3	-	1,262,000	389,000		
	4		1,279,000	401,000		
立命館大学 理工学部 環境都市工学科	1	300,000	1,384,600	-	6,318,400	
	2-4	-	1,544,600			
金沢工業大学 工学部 環境土木工学科	1	200,000	1,343,000	-	6,088,000	
	2-4	-	1,515,000			

## (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

### ① 広報活動について

本学では、学生確保に向けて、入学センター及び経営本部渉外部を中心に、文部科学省が示すPR活動及び学生募集に係るルールを遵守し、環境創造工学科の設置について広報活動を実施している。【資料1】

また、届出後もルールを遵守した上で、本学ホームページ等の広報媒体、各種説明会等を通し、学生確保に向け組織的な取り組みを進めていく。

### ② 本学独自の給付型奨学金制度による経済的支援について

本学では、学部生を対象とした、独自の給付型奨学金制度を設けており、経済的理由により修学が困難な学生、学業優秀学生に対し、経済的支援を行っている。【資料2】

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

理工学部環境創造工学科では、わが国が目指す「持続可能な経済社会システムの構築」に貢献するため、環境に最も影響の大きい「エネルギー・資源環境」、自然環境に関する諸問題を扱う「環境共生」、生活環境など人間活動に直接的に関わる諸問題を取り扱う「人間活動環境」の観点から、新しい学問分野として以下の5つの柱からなる「環境創造工学」を掲げ、これらを柱とした基本教育を行い、環境に携わる技術者・研究者の養成を目指す。

- ① 環境に配慮した生活態度と環境問題を発生させない心構えを醸成させる。（環境の心）
- ② エネルギー・資源の有効利用に取り組む。（エネルギー・資源問題の解決）
- ③ 良好な環境の保全と悪化した環境の復元・改善に取り組む。（環境の保全と復元・改善）
- ④ 自然との調和を図る。（自然との共生）
- ⑤ 新しい環境システムを創出する。（環境創造）

**(2) 上記 (1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠**

環境創造工学科は、「設置の趣旨及び必要性」に記載の通り、環境創造学科の理念を継承しつつ、より先端的な学問領域としての「環境工学」を取り扱う学科として設置する。人材養成目的についても、環境創造学科が掲げる内容を踏まえ策定しているため、環境創造学科卒業生の就職状況から、環境創造工学科が養成する人材の社会的・地域的な需要を検証する。

**【理工学部環境創造学科の人材養成目的】**

理工学部環境創造学科では、新しい学問分野として下記の 5 つの柱からなる「環境創造学」を掲げ、これらの柱を基本とした教育を行い、環境に携わる技術者・研究者の養成を目指す。

- ①環境に配慮した生活態度と環境問題を発生させない心構えを醸成させる。(環境の心)
- ②自然の論理性を的確に把握する。(自然の論理性の把握)
- ③良好な環境の保全と悪化した環境の復元・改善に取り組む。(環境の保全と復元・改善)
- ④自然との調和を図る。(自然との共生)
- ⑤新しい環境システムを創出する。(環境創造)

**【理工学部環境創造学科卒業生の就職状況】(平成 26 年度～平成 30 年度卒業生)**

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
卒業生数 (A)	111	70	95	87	88
就職希望者数 (B)	103	63	84	80	83
進学者数 (D)	4	6	5	5	5
受付求人社数	11,377	13,471	15,210	14,831	13,824
就職者数 (C)	103	63	84	80	82
東海三県への就職者数	81	46	66	55	50
就職率 (C / B)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%
実就職率 (C / (A - D))	95.4%	98.4%	93.3%	97.6%	98.8%

※「平成 30 年度」の数値は、平成 31 年 4 月 16 日時点。

※「就職率」「実就職率」は小数第 2 位を四捨五入。

以上の通り、環境創造学科卒業生の過去 5 年間における就職状況は、「就職率(就職希望者数のうち就職した者の割合)」が 98.8%～100.0%、「実就職率(卒業生数から進学者数を除いた人数のうち就職した者の割合)」が 93.3%～98.8%と高水準を維持している。これは、文部科学省及び厚生労働省から毎年 5 月に公表される「大学等卒業予定者及び高校卒業者の就職状況調査」における対象大学全体の就職率(平成 29 年度：98.0%、平成 28 年度：97.6%、平成 27 年度：97.3%、平成 26 年度：96.7%)と比較しても、優れた水準であり、環境創造工学科が輩出する人材への社会的な需要があると言える。

また、本学が位置する愛知県名古屋を含む東海三県の企業等からの受付求人者数及び就職者数からは、継続的に地域的な人材需要があると言える。

以 上